

全日本大会報告 3月26日福岡県宗像郡 村越 真

全日本大会が3月26日に福岡県で開催された。日本選手権をかけたこのレースは、男女ともタフなコースが用意され、各選手はこの難コースに挑んだ。

男子はベテランの村越が5年連続の優勝を飾り、全日本大会通算成績20勝となった。村越は1999年の秋に足を骨折しており、トレーニングのできない時期があったが、この怪我を克服して見事優勝を飾った。

一方女子は、九州出身の金並が初優勝を飾った。

会場速報による選手権クラスの成績は以下の通り。

男子日本選手権 (11.5km up 580m)

1. 村越真	静岡O L C	1:38:02
2. 鹿島田浩二	荏原品川	1:41:51
3. 加賀屋博文	渋谷で走る会	1:54:27
4. 富田吉郎	多摩O L	1:56:24
5. 柳下大	Forester	2:00:36
6. 松澤俊行	京葉O L クラブ	2:02:47
7. 石井龍男	千葉O L K	2:09:10
8. 菅原琢	多摩O L	2:10:45
9. 利光良平	Team 白樺	2:13:01
10. 小河原成哲	丘の上	2:14:10
11. 高橋善徳	筑波大O L 愛好会	2:14:30
12. 国沢五月	トータス	2:15:18
13. 篠原岳夫	筑波大O L 愛好会	2:18:23
14. 大西淳一	神奈川県横浜市	2:18:42
15. 兼田僚太郎	Team 白樺	2:20:20
16. 安良和寿	東京都杉並区	2:20:27
17. 山口尚宏	95年入学同期	2:23:48

女子日本選手権 (7.5km up 390m)

1. 金並由香	早大O C 寿会	1:27:44
2. 落合志保子	O L C ルーパー	1:32:42
3. 木植早生	Team 白樺	1:33:11
4. 高野由紀	東京O L クラブ	1:33:25
5. 宮川祐子	筑波大O B 愛好会	1:38:12
6. 三好暢子	上尾O L C	1:44:20
7. 塩田美佐	筑波大O L 愛好会	1:44:39
8. 新桂子	人間市O L C	1:46:53
9. 加納尚子	Team Zebra	1:48:52
10. 田島利佳	みちの会	1:50:36
11. 畑山結佳	広島O L C	1:52:02
12. 岩谷ひろみ	岩と谷の会	1:55:03
13. 志村聡子	横浜O L C	1:57:41
14. 出田裕子	O L P 兵庫	1:58:29
15. 志村直子	かすいち倶楽部	1:59:50
16. 佐々木峰子	つくばROC	2:08:42



村越真 (M21E 優勝、全日本選手権者)

我慢して走った。登りや後半でスピードが落ちそうになった時も、手を抜くぐらいだったら今すぐ止めて帰れ」と自分を叱咤激励してました。それに言い訳があったから、余計負けたくはなかったですね。だって、本当は影響ないのに負けて、周囲から「怪我したから仕方ないね」なんていわれるのは、屈辱でしょ。こういうコースだとたとえ自分のできが悪くても、我慢して走ればいいことあるからね。実際そうだった訳です。

意外だったのは8番の時点でカッシーに3分近く負けていることです。一つはルートチョイスの問題がかもしれないけれど、自分としてはそれほど悪くない。確かに早くはないけど、ミスを最小限にしたレースをしているという感覚があったので、3分は大差だなあ。逆にいえばそこからいきなり5分以上の差がついたということですね。

怪我？怪我の直接の影響はなかったと思います。まあトレーニング不足ですから、内容には納得はしていません。レース中はそういう感じはしませんでした。



金並由香 (W21E 優勝、本年度全日本選手権者)

2月は、今までではじめて300km レベルでトレーニングしたんですよ。でも今月になってからは、学校での修学旅行(スキー)なんかがあって、切れてましたね。

それに先週は実家で祖父がなくなって。この1週間でも二度も九州に来てるんですよ。

2月の早稲田では、よくなかったです(7位)。地図も読んでいなかったんで。だから今日は地図を見てから動くということは心がけました。

優勝したのは志保子のおかげです。ラップをみると、志保子がつぼった1番以外は、互角か遅いくらいです。全日本にむけてどうというのはなかったけれど、こういうコースだから気合いが入ってなくてもいい結果につながったんだと思います。

(優勝しての感想は?) これで4月5日まで大分(実家)にいられるのがうれしいです。来週(2日)のワールドカップセレクションに出なくていいですから。しばらく母と一緒にいてあげます。

(図2)

鹿島田浩二 (M21E 2位)

まあ、今回は正直なところ勝ちたいという強い気持ちはなかったですね。いろいろあったんで、正直、やっとここまで来れたという感じです。

1番では最初の沢をコンタリングして、上からアタックしてきたんですけど、沢の上の方でもポストの匂いなんか全然なくて、不安でした。ああ、今日はこういうレースなんだと思いました。

途中までは我慢してよく走れていたと思います。難しいコントロールでもミスは15秒くらいに抑えていたし。でも凡ミスのと崩れてしまうという今までの悪いパターンがまた出てしまいましたね。やっぱりミスのあと、取り返してやるうというか、そういう気持ちになったのは確かです。このパターンは、95の奈良、97の広島と同じパターンです。いずれも中盤までは同じくらいのタイムで後半に3分以上のタイム差が開いています。

加賀屋博文 (M21E 3位)

5番で手前の沢に落ちてしまい、復帰するのにもたつきました。そのミスは2分くらいだったので、そのあとちゃんと回ればそれなりの結果になったんですけど、そのあとの(コンタリングの)レッグでミスを連発してしまいました。最後はめしばてにもなってしまって、



落合志保子 (W21E 2位)

今回は優勝するつもりでできました。ただスタートで考えていたのは「何があっても最後まで走りきる、スピードをあげて走ろう」ということでした。1番のミスはありましたが、2位は素直にうれしいです。インカレでも全日本でも、これまでの最高は5位でしたから。1番で5分ミスしたんですよ。手前の尾根でうろうろしてしまって。でもそのあと、こんなコースだから他の人もミスするはずだからと気を抜かず走りました。今まででとそういうミスをする、そこからずるずる落ちてしまうのが私のオリエンテーリングだったんですよ。でも、このまま落ちてしまったら、今までと同じじゃないかと思って、その後もがんばりました。



アーリック・フィッシュ (カナダ; M21A)

アーリック・フィッシュさんは、昨年の世界選手権に参加したエリート競技者である。去る10月よりNOVAの函館校で、奥さんと一緒に教鞭をとっており、今回久しぶりのオリエンテーリングを楽しんだ。

「今日のレースは難しかった。特に緑の中の走り方がね。でもコースはおもしろかった。ルートチョイスがあるし。またコントロールの付近では注意力が必要だった。それが欠けていたので、一つで20分ミスったところもある。成績? 後ろから数えたほうが早いね。2時間20分もかかってしまったよ。もっとトレーニングしなければ。」

でも函館は静かで環境はいいけど、オリエンテーリングは全然できないね。この冬はオリエンテーリングよりもスノーボードをたくさんやったよ。10月に契約更改なので、そうしたらもっとオリエンテーリングができるようなところに移りたいと思っている。」

全日本大会コントローラー感想

福田良雄

どうにか不成立という不名誉な結果を起こさず終了できてホッとしています。

平成7年の競技規則改正に伴って公認大会に配置されるようになった、大会コントローラーの制度ですが4年目を迎え平成8年に養成講習会が実施され、修了者のうち認定された者25名の最終をかざる者としての登場でした。

講習会会場で、主管者の福岡県協会からご挨拶があり、依頼を受けていましたが、予算等の都合がJOAからの委嘱状が発行されず、現地入りが遅れてしまいました。

というのも、現在のJOAの予算は予算的に3回のコントロールしか企画されていません。1泊2日で3回日帰りでは6回の交通費です。日当は考えてくれていますが経費は全くないのです。当然現地での作業に掛かる費用は、主管者の負担です。しかし順番で仕方なく開催している地方組織にそのような財政的余裕は無く、ましてJOAの回し者に？ということにも。しかしコントロールを委嘱された私たちにも少しでも良い大会にしたいと言う自負があります。まして全日本、その年の最高の大会です。年が明けて福岡県協会よりコントローラーの委嘱が発行されました。連絡が有り、事前の会場には1年前が過ぎてに訪問することになりました。

もっとも1年前の3月に地元山口県でインカレが開催され私共々若手のスタッフがこちらの役員であったこともあります。このため、地図の調査が大幅に遅れ、最終の確認が不完全なままに大会を迎えてしまったことは否めません。特に参加者に不評だった竹藪の可能度。地図調査の段階で調査者の意見統一をよくしておくべきと反省しています。

そうすれば2次以降の調査が徹底したでしょうが。人員と時間不足です。開催県の福岡は九州ブロックの要であり、今回も同じブロックの熊本県返上の肩代わり開催でした。近くは平成6年の西日本大会を開催した実力がありますが世代交代が進まず、役員の高齢化、弱体化が進んでいます。今大会を機会に発展のきっかけにしたいという気持ちが多いに感じられました。

4月に現地トレインを紹介されましたが今だクリンコピーが未完成でこれからの状況、いまさらトレインの選定に関与も出来ず地図の完成を待つことにしました。

暑い夏の日差しの中で地図調査がなされCADに打ちこまれて行きました。8月末にJOAより正式に委嘱状が発行され、この日から晴れて登場です。

12月を迎えようやく運営役員の全体会議、先にかくパートから提出のマニュアルの擦り合わせを実施、翌日は試走です。この日は役員の都合からB,Nクラスのみ、年が明けてE,Aのクラスの試走会。さらに2月に第2回目の試走会と繰り返し、コースの決定に進んでゆきました。

今回多くの参加者の大半が、第1コントロールのルート選択で迷われていたようです。この地形はあまり

にシャープでつい地形に気を取られコンパスを使用せず90度位置を間違ってしまう、面白い場所です。この地形をうまく使用するために同じ方向に全く走らないよう工夫したところ、どうしてもコースが限られ、ついに全日本でありながら少ないコース設定になってしまいました。そこでコース統合が発生、新しい試みとしてW21ASをW35-40A、M16A等とまとめました。結果まずまずの結果かと。

トレインの中央が高い山で、これを回るか否かでコースが大きく変わり結局、Eと一部Aクラスに限定、このクラスでは厳しいセットになったようです。

今回、救護を要請した方の多くはこのクラスで、大半が疲労。ようやく救護所にたどり着いたといった状況でした。しかしその反面この他のクラスからはでは容易だと不満もあったようです。

この他に最高年齢枠の拡大でM65A、等も企画しましたが参加者の数と準備不足で出来ませんでしたが、要求があるのは事実で次回検討課題にお願いしたいものです。

他にちびっこランナー用にこのクラスのコントロールを特に低くセット、パンチしやすくセットしました。役だったでしょうか。

また、Eクラスのコメント表示はいかがでしたか。協力してくださった方ありがとうございます。好評のようでした。しかし優勝者、上位者のコメントコーナーが広報不足でした。

今大会で一番の不評は成績発表の遅れでした。ついに表彰式もできず。深くお詫び致します。原因は会場に所狭しと並んだテントが次々撤去の憂き目に遭った強風でした。

この風による砂塵でCPUがストップ。ゴールプリンターに切り替え。手作業になったことから、成績の処理が追いつかなくなってしまいました。寒さや雨を予想して大きなフードをかけていたのが逆に風集めになってしまったのかもしれない。

各地の大会で速報の正確さ、迅速さを追及してのCPU使用化がなされていますが思わぬ落とし穴が有るものです。風にも注意です。

いずれにせよ一番大切な全日本の表彰が出来なかったのは残念でした。輝く20勝の村越君、そして金並さん他表彰台に上がるはずの皆さんに、そして、確定結果で順位の入替わってしまった皆さんに重ねて深くお詫びいたします。

ついでにクレームですが0Lの発展と共にマナーの悪い方も多くなって来たようで残念です。ルールとして問題があったかもしれませんが、今回は全日本選手権大会と言うことで一切の代走が禁止されているにも関わらず、無届の行為がありました、しかも本人からのクレームで発覚。

また更衣所に残されたゴミの山、それも主管者が用意した記念品の袋に食べ残しの生ゴミが、これなど不要の方にはとゴールに自由にとって帰れるようにしてあったものです。不参加者の地図も持ちかえる方の確認をせざるを得なかったのもこの為。地図販売では間違えの無いよう控えが必要。これなど本来は全く不要の作業です。主管者の無駄な作業が無いよう参加者も考えねばなりませんね。